

Citation: Chen X, Zhou M, Li Q, Yang J, Zhang Y, Zhang D, Kong S, Zhou D, He L. Sanchi for acute ischaemic stroke. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2008, Issue 4. Art. No.: CD006305. DOI: 10.1002/14651858.CD006305.pub2.

CRG名: Stroke

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 17 June 2008

Clib issue No.; N/U: 2008 issue 4; New

背景: 現在、急性虚血性脳卒中に対してルーチンでの使用が裏付けられている薬剤はほとんどない。サンチは中国で虚血性脳卒中に最も広く使用されている薬草療法のひとつである。

目的: 急性虚血性脳卒中の治療におけるサンチの有効性と安全性を評価する。

検索戦略: Cochrane Stroke Group Trials Register(最終検索2008年1月)、Chinese Stroke Trials Register(検索2007年2月)、Cochrane Complementary Medicine Field Trials register(検索2007年2月)、Chinese Cochrane Centre Controlled Trials Register(最終検索2007年2月)を検索した。Cochrane Central Register of Controlled Trials(コクラン・ライブラリ2007年第1号)、MEDLINE(1966年~2007年2月)、EMBASE(1980年~2007年2月)、CINAHL(1982年~2007年2月)、AMED(1985年~2007年2月)、CNKI(1979年~2007年2月)、CBM-disc(1979年~2007年2月)、VIP INFORMATIONのChinese scientific periodical database(1989年~2007年2月)、Wanfang Data(1982年~2007年2月)、CISCOM(1980年~2007年2月)、およびTCMLARS(1984年~2007年2月)も検索した。

選択基準: 発症から30日以内の急性虚血性脳卒中を対象として、サンチをプラセボまたは無治療と比較しているランダム化比較試験。

データ収集と分析: 2名のレビューアがデータを抽出し、試験の質を評価した。

主な結果: 660例の参加者を対象とした8件の試験を含めた。8件の研究のうち7件は質が不良であった。6件の試験の追跡期間は1ヵ月未満であった。2件の試験のみが、28日間の治療終了時に死亡または依存状態の参加者数についてのデータを提供しており、サンチ群の方がコントロール群よりも有意に低い死亡率と依存性を示していた(相対リスク(RR)0.63、95%信頼区間(CI)0.45~0.88)。1件の試験は、サンチ群でより高いバーセル指数のスコアを報告していた。7件の試験を統合した解析では、サンチがコントロールよりも神経脱落症候を改善させることが示されており、有意差がみられた(RR 0.29、95%CI 0.18~0.47)。全症例の致死率は1%未満であり、このことから、おそらく参加者は軽度の脳卒中であったことが示唆される。有害事象はほとんど報告されていなかった。脳卒中の再発および生活の質(QOL)に関するデータは限定的であった。

レビューアの結論: 本レビューにおいて、サンチは急性虚血性脳卒中に対して有益で安全であると思われるが、サンプル数が少なく、研究の質が劣るため、決定的な結論は下せない。さらに適切にデザインされたランダム化比較試験が必要である。

(監訳 内藤 徹)

翻訳公開日: 09年2月20日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。